

夏も盛りを過ぎ、家の周りでは蝉が鳴いています。

松尾芭蕉は、「頓て（やがて）死ぬ けしきは見へず 蝉の声」と詠みました。

うるさいくらいに元気に鳴きつづけている蝉の声を聞いていると、やがて死んでゆくものだと到底思えないといった意味でしょうか。この句の前書きには、

「無常迅速（むじょうじんそく）」とあります。仏教の言葉で、すべてのものは移ろいゆく。縁によって生まれ、そして滅する。それはきわめて素早いという意味です。

蝉は幼虫で種類によって最長十六年間くらい土の中にいますが、成虫になり地上に出ると一ヶ月ほどの命です。つい最近までは、捕まえて飼うと数日で死んでしまう事などから、一週間の命ともいわれていました。

この蝉の短い地上での期間を人生と重ねて「人生の盛りは短い」などと理解する方もいらっしゃるようです。

地上での寿命が短いだけではありません。無事に地上にでて成虫になるのはそんなに高い確率では無いのです。例えば、地中ではモグラなどに食べられる危険があります。また十数年という期間で、地上の様子が一変してアスファルトで地表が覆われていたらそのまま地中で一生を終えることになります。羽化する時も大変です。羽化が始まったら、殻がちゃんと割れないと変化する身体が圧迫されてしまいますし、傷ついたら成虫にはなれません。その間は、害敵に食べられるおそれもあります。このように様々な好い条件が重なって初めて成虫になることができるのです。

私たち人間の存在も同様です。様々な縁によって今があるのです。

すべてのものは移ろいゆく。縁によって生まれ、そして滅する。常なるものな無いという事を知って人間関係や仕事、出会いを大切にしてく。すべてがさまざまな縁によって存在する事を知っているからこそ、周りへの思いやりを持って行動できる。

蝉はただ、その現実の中で生きていますが、私たち人間はそれらを理解して人生に生かすことができます。

この真理を理解して生きることがお釈迦さまの「智慧」なのです。

蝉はたとえ、地上にいる時間は短くとも止むこと無く鳴き続けます。

私たちはお釈迦さまの「智慧」にしたがい、生きて行きたいと思うのです。